

## <金標準先物、ECB 理事会、雇用統計を受けた円安の恩恵・・・>



(出所：オアシス)

先週に ADP 雇用統計で事前予想を大きく下回る 30.1 万人減となり、ECB 理事会ではラガルド ECB 総裁は「3 月にはさらに将来の資産購入ペースについて判断する」と述べるなど、FRB の急激な利上げ観測が後退し、ECB はインフレ懸念におされ出口戦略に傾きを示し、為替市場でユーロ高：ドル安の動きを見せている。

しかし注目された雇用統計では非農業部門就業者数が事前予想の 12.5 万人増を大幅に上回る 46.7 万人増となるなどサプライズの結果を受け、10 年物国債金利は 2019 年 12 月以来 1.9%を超え 1.932%まで上昇している。

特に NY 金は、ADP 雇用統計や ECB 理事会を受けドル安の動きに 1812 ドルまで高値を試している。また金標準先物は、ADP 雇用統計、ECB 理事会また雇用統計を受けても円は対ドル、対ユーロで売られる環境下であり、円安効果を受けて 6600 円を下回る事を回避している。特に欧米のインフレ高を背景とした金利高の環境下で「金利を生まない金」であるが、ウクライナ情勢や原油高の動きを受けて 6600 円で下値抵抗を確認するなど底堅く、6700 円へ向けて戻りを示す値動きが予想される。

### <テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** が下げ止まりながら切り上げだし、**シグナル**は下げるなど、**MACD** と**シグナル**の乖離を示すヒストグラムが縮小している。また RCI は**短期**が上昇し、**長期**が下げており、そのため**短期**が**長期**を上回るクロスが発生している。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 467,000 円(2022 年 2 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2022 年 2 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会が開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>